



2022年度 **5月号**
 日本キリスト教団
名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)
 名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

今年は昨年同様に、桜も早かったですが、保育園の藤の花も、街路樹のツツジもあつという間に見ごろを迎えてしまいました。コロナ情勢も静かな状況ですが、みなさんは新しい学年、新しいクラスでの生活は慣れたでしょうか。新たな出会いを大切に！

今月の礼拝 単元21: イエスの弟子たち

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中学生以上) 9:00～9:30	分級 (小学生/中学生以上) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
5月1日	マタイ	ルカ 5:27-32 マタイ 9:9-13	武岡 基	母の日プレゼントづくり (安達いづみ)	武岡路実
5月8日 母の日	ヤコブとヨハネ	ルカ 9:51-56 マルコ 10:35-45	武岡路実	母の日プレゼントづくり (武岡路実)	安達いづみ
5月15日	ペトロ①	マタイ 14:22-33 マルコ 6:45-52	林 小夜子	プレイ・タイム	武岡 基
5月22日	ペトロ②	マタイ福音書 16:13-20	安達正樹牧師	プレイ・タイム	安達正樹牧師
5月29日	ペトロ③	ヨハネ 13:36-38 18:12-27 21:15-19	武岡 基	プレイ・タイム	安達正樹牧師

「母の日」教会から始まりました

アメリカ・ウエストバージニア州の小さな町ウェプスターのメソジスト教会に、ジャービス夫人という教会学校の教師がいました。ある日曜日、彼女は「十戒」の中から、両親を敬うべきことを教え、最後にこう語りました。「みなさんの中から、お母さんの愛に心から感謝する方法を教えてください。私は望みます。」その後、1905年にジャービス夫人は亡くなり、その2年後の1907年に追悼集会が開かれました。娘のアンナ・ジャービスは、母の言葉を思い出し、この追悼集会にたくさんのカーネーションを飾って、亡き母を偲び、感謝を表しました。これが人々に大きな感動を与え、いつしか、この習慣は人々の間に広まりました。1914年、アメリカ議会は5月の第2日曜日を「母の日」として定めました。

みなさんもジャービス夫人の言葉「両親を敬うこと」の大切さを思い、「両親からの愛に感謝する方法」を考えてみましょう。

今月の聖句 (2022年度教会聖句)

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

(ローマの信徒への手紙 12:12)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 124 (しゅわれをあいす)

讃美歌21…484

今月の礼拝では、4月のイースター（イエスさまの復活）から続くイエスさまの弟子たちについて学びます。イエスさまを信じて従っていた弟子たちは、イエスさまの十字架での死、そして復活、目の前に現れる…それらのできごとにどのような思いを抱いたのでしょうか。おそらく、弟子たちはイエスさまの愛を感じずにはいられなかったのではないのでしょうか。

今月のさんびか124は日本のキリスト教会で最も有名な、最も親しまれている賛美歌の一つです。日本におけるプロテスタント宣教初期に日本語に訳された賛美歌で、日本のキリスト教の歴史と共に歩み、長年歌い継がれてきました。また世界中で歌われている賛美歌でもあります。

作詞者はアナ・パートレット・ウォーナーさん（1820-1915）です。彼女はニューヨーク近郊に生まれ、エミー・ロスロップというペンネームで多数の小説を書きました。そして同じく文筆家であるお姉さんのスーザンさんと共にアメリカ士官学校のバイブル・クラスで60年近くも生徒たちの宗教教育に尽くされました。

この歌詞は当初、彼女たちの共著による“Say and Seal”（1859）という小説の挿入歌として書かれました。その後、アメリカの教会音楽家ウィリアム・ブラッドベリーさん（1816-68）によって“JESUS LOVES ME”の曲が付けられ、1862年に出版された賛美歌集によって独立した賛美歌として歌われるようになりました。作曲者のウィリアム・ブラッドベリーさんは、唱歌学校の指導や教会の聖歌隊長を務めた後、ドイツのライプツィヒに留学し2年後に帰国、子どもたちの礼拝用を中心に精力的に賛美歌を作り、またピアノ製造業者としても成功しました。彼はまた、音楽書や賛美歌集を多数編集出版するなど、19世紀アメリカの教会音楽家として極めて有名な存在でした。彼の曲は歌いやすく、叙情性が強く、五音音階の多用、単純な和声等、日本のプロテスタント初期の賛美歌集にも数多く採用されています。『こどもさんびか』では他に127「あさひうけて」、『讃美歌21』では有名なものだけでも、459「飼い主わが主よ」、461「みめぐみゆたけき」、474「わが身の望みは」、495「しずけき祈りの」などを作曲しています。

この賛美歌が日本語に訳されて初めて公で歌われたのは、1872年の在日宣教師会議において一同で試唱したという記録が残っています。実に今年で150周年！です。当時の訳詞によると1節は、

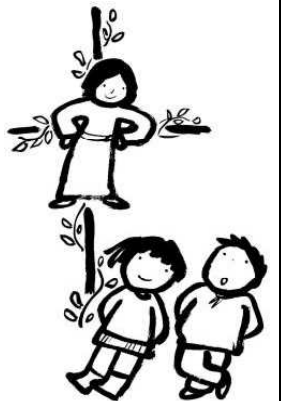
エスワレヲ愛シマス、サウ聖書申シマス、彼レニ子供中、信スレバ属ス、

ハイ エス愛ス、ハイ エス愛ス、ハイ エス愛ス、サウ聖書申ス

しかし、その2年後に出された最初の日本語賛美歌集では、文語調の歌詞に書き直され、『讃美歌』

(1903)では現在よく知られている「主われを愛す」の形になりました。英語の原詞中にある“for the Bible tells me so (というのは、聖書がそう告げるから)”の部分はこの賛美歌のキーワードというべき重要なフレーズですが、1903年以降の訳からは欠落してしまっていました。そこで『讃美歌21』(1997)では口語訳を新しく作り、その部分を「くりかえし」に復活させました。『こどもさんびか』(2002)では、新しい口語訳の歌詞を普及するために「愛の主イエスは」の歌詞のみが採用されました。

名古屋新生教会・子どもの教会では、歌い継がれてきた「しゅわれをあいす」の歌詞を『こどもさんびか』の後方に貼付しました。文語調ですが子どもにも歌いやすい歌詞です。また英語の原詞も掲載しましたので、英語の歌詞にもチャレンジしてみましょう！そして何より、歌いやすい和音ですので、ハーモニーにも挑戦して、素敵な賛美をしましょう♪



おたんじょうびおめでとう🎂

5月生まれのお友だち